

けせん医報



目次

- 巻頭言 《未来かなえネット》とは
気仙医師会副会長（大船渡病院 院長）
伊藤 達 朗… 2
- 理事会報告 …………… 3
■平成28年度第3回理事会報告 …………… 3
- 随 想
「若大将のこと」
岩手県立大船渡病院統括副院長 瀧 向 透… 5
「インフォームドコンセント今昔」
岩手県立大船渡病院 外科 中 野 達 也… 6
- 各科のトピックス…介護予防のための骨粗鬆症対策について
鳥羽整形外科医院 鳥 羽 有… 8
- 医院紹介…陸前高田市立国民健康保険 二又診療所
所長 石 木 幹 人…10
- 東日本大震災復興支援岩手県医師会野球大会……………12
- 平成28年度「救急の日」イベント ……………14
- 会員の異動 ……………15
- 事務局日記 ……………15
- 編集後記 ……………16
- 表紙のこぼれ ……………16



第139号
2016. 10. 25

気仙医師会
岩手県大船渡市盛町字内ノ目6-1
TEL:0192-27-7727 FAX:0192-26-2429
<http://kesen-med.or.jp/>

巻頭言



《未来かなえネット》とは

気仙医師会 副会長（大船渡病院院長）

伊 藤 達 朗

ICTによる地域医療介護情報共有システム構築の計画は2012年に気仙環境未来都市構想の一つとして始まり、その運営母体は協議会から2015年には一般社団法人「未来かなえ機構」となっている。この「未来かなえ機構」の設立までの経緯については滝田先生がすでに執筆されているので、《未来かなえネット》の考え方や特徴について、紹介する。

まず、2014年に始まったワークショップでは地域に必要なシステムについて検討し、3項目にまとめた。1. 医療・介護情報のデータベース化と保存、2. 医療と介護情報の統合を目的とした地域包括ケアにおける情報共有と双方向の実現、3. 高齢者だけではなく小児・就労者の健康支援機能（予防、早期発見、疾病管理、救急など）を持つことである。

2015年にはワーキンググループでの検討や理事会での討論、実際に事業を進めてゆく中で《未来かなえネット》の6つの特徴を明確にしてきた。①厳正な業者選考、設計と施工の分離、②電子カルテを前提としない双方向性、③医療・介護の統合、④多職種協働の実践（IPW）のためのネットワーク、⑤行政、ユーザーの費用負担による運営、⑥全住民が参加対象である。①は設計業者（コンサルタント）、施工業者（ベンダー）の両者とも外部委員を入れたコンペ方式を採用し、コンセプトに沿った要件定義、要件定義と仕様の適合性など視点にした選考である。②は電子カルテがなくともレセプトデータ、検査センターの検査データなど既存のデータを利用した双方向性の実現であり、基幹病院からのデータだけを一方向に流すシステムではない。③は地域包括ケアシステム構築には医療と介護情報の統合が必要不可欠である。④は地域では医療・介護分野でいろいろなワーカーが協働して活動しているので、コミュニケーションツールとしてだけではなく医療や介護の安全や感染対策情報ツール、e-learningツールとしてのネットワークシステムである。⑤はランニングコストをユーザー負担とし、リプレイスに備えた事務局運営費やリスク積立金などを行政の負担とする。⑥は今までの共有システムでは患者や施設利用者が対象であった

が、疾病の有無にかかわらず子供から高齢者まで対象とするので、2市1町の全住民が参加対象となる。

このような特徴を持つ《未来かなえネット》は今年の4月より稼働し、全国的にも注目され、多数の問合せが機構に寄せられている。現在、住民参加者は6180人に上り、救急、見守り、健康管理等のワーキングが活動しており、2期、3期計画が進行している。しかし、基幹病院のデータはアップロードの最中であり、対応すべき課題などもいくつか浮上してきており、十分利用している状態とは言えない。ユーザーがもっと気軽に利用できるように次期計画実行と共に課題の解決と効果的なユーザー教育が早急に望まれる。

理 事 会 報 告

第3回理事会報告

◇日 時：平成28年8月10日（水）午後7時
◇場 所：気仙医師会館
◇出席者：滝田有会長、伊藤俊也副会長、伊藤達朗副会長、岩渕正之理事、鳥羽有理事、盛直久理事、渕向透理事、田畑潔理事、山浦玄悟理事・理事9名

一 開 会

定刻に開会

二 会長挨拶

挨拶に引続き議長となり会議を進行

三 報 告

- 1) 会長報告「会長月報から（H28年8月号）」
 - ☆6月23日（木）学術講演会：医大泌尿器科小原教授ご講演（プラザホテル）：謝辞
 - ☆7月29日（金）未来かなえ機構理事会（リアスホール）：司会
 - ☆8月2日（月）大船渡保健所佐藤次長、前田主査と面談（滝田医院）
 - ★8月3日（水）気仙がん診療連携協議会（リアスホール）：岩渕、山浦両理事出席
 - ☆8月4日（木）大船渡市国保年金課大浦課長と面談（滝田医院）

☆8月6日（土）郡市会長協議会（県医師会館）
☆8月8日（月）気仙圏域医療介護連携協議会（保健所）：司会
☆8月8日（月）県医師会千葉統括事務局長 高田診療所撤退挨拶（滝田医院）
☆8月10日（火）未来かなえ機構実務者（HC R社及び日本ユニシス社）と面談（滝田医院）
* ☆は出席、★は欠席を示す。

未来かなえネットは順調な滑り出しで、登録住民数は6000人をうかがう勢いである。気仙住民の10人に1人が加入している計算になる。年内に1万人を超すようにプロモーションを続けている。またA会員の皆様にも積極的に加入していただいている。第2期、第3期を通して高田は国保診療所をあわせてほぼ全て、大船渡も3～4軒ほどを除いて加入がほぼ決定している。一方吉浜および綾里の医師不在問題が9月から顕在化する。全会員の一致団結と協力が求められる局面となっている。岩渕先生が県医師会理事としてスタートを切った。益々ご多忙と思うが総務や訪問診療と併せて八面六臂の活躍を期待したい。

◆県医師会第1回理事会（報告・岩渕理事）
◇日時：平成28年8月6日（土）午後3時30分～
◇場所：県医師会館3階中会議室
県の理事になって初会議で出席した色々勉強な

随 想

若大将のこと

岩手県立大船渡病院統括副院長

淵 向 透

震災前、野々田に「若大将」という店がありました。私が20数年前、当地にやってきた時からその店があり、医局の歓送迎会、個人的にも先輩後輩等との飲食や年越し寿司を頼んだり、よく使わせてもらっていました。後輩の中には大将の人徳なのか、日々の食事を兼ねて店に足繁く通い、親しくなっているものもありました。

東日本大震災によって店は流され、当初は大将もどうなったのかわからない状況でした。平成5年北海道で起こった奥尻島地震の際、丁度後輩と若大将で食事をしていましたが、三陸沿岸に津波警報が出るとともに、危険だという事で大将の車に乗せてもらい急遽避難したことがありました。盛岡生まれの私には、津波の怖さを知る由もなく、正直言って、なんでこんなに焦って逃げなければならないのかは理解できませんでした。その際、津波警報は注意報と違いかなり危険な状況であること、逃げる際にも、津波が遡上ため川に沿って逃げてはいけないこと等大将から教えてもらい、津波に対する知識の深さに感心したことがありました。そのような事もあって、今回も大将は無事だろうと心の中では思っておりましたが、その所在は知りませんでした。

大将のうわさを聞いたのは、震災から3年程過ぎた頃にあった医局同門会主催の忘年会です。その時、以前一緒に働いた後輩から、大将が東京の立川あたりで寿司屋を始めていることを教わりました。店の名前は〇〇寿司と聞き、早速グーグル検索し、店のあたりをつけていました。立川は私の家がある福生と同じ青梅線沿いにあり比較的近いので、ある時訪ねてみましたが、そこは思っていたところと違う店でした。事前に電話で確認すれば良かったのですが、大将を驚かせようと、敢えて連絡なしでの訪問でしたが、残念ながら外れでした。

その後は、しばらくそのままでしたが、ある日何故か思い立ち、再びグーグル検索しました。キーワードをいろいろ変えながら探しましたが、武蔵村山に「三陸大船渡寿し」という店を見つけ、その名前から間違いないだろうと確信しました。店のある武蔵村山市は、東京駅から電車を2回乗り換えて、1時間ちょっとの距離にあります。私の自宅からは、カーナビで調べると、10km位の距離で近いことがわかり、先日初めて車で行ってみました。今回も事前の電話は入れないで、突然の訪問ですが、今回は大正解でした。ドキドキしながら店の暖簾をくぐり、一瞬の沈黙の後、「大将！」「先生何でここに！」とお互いに言葉が出て、しばらくぶりの再会にハグしながら涙がでました（ウソです）。他のお客さんがいたこともあり、寿司を握る合間に、大将がこちらに来るまでの経緯、お互いの近況等1時間程話して店を後にしました。奥さん、息子で切り盛りしているアットホームな店ですが、敢えて東京で「三陸大船渡寿し」とした店の名から、大将の気持ちが伝わってきました。最後に、寿司の味ですが、もちろん以前と同様美味でしたが、確かなところはこれから何度か行って確かめることにしましょう。

皆様も東京で時間がある時は、是非お立ち寄り下さい。



インフォームドコンセント今昔

岩手県立大船渡病院 外科

中 野 達 也

私が研修医だったころの30年ほど前のことである。マムシに手を噛まれた高齢の男性が入院した。翌日になり腫脹が上腕までひろがり、マムシ抗毒素を使うこととなった。やや年配の医師が家族に説明を行った。抗毒素の必要性和ウマの血清を使っているのでアナフィラキシーショックを起こす可能性、その場合死ぬこともあると説明したようだ。家族としては注射をするとショックで死んでしまうかも知れないが、注射しなければ死んでしまう。

これは一大事と個室の病室には親戚の方など10人以上が集まった。担当看護師がマムシ抗毒素の注射をしに病室に行ったが、この注射が入ると死ぬ（かもしれない）んだと言う十数人の目に注視され、「先生、注射できません」と言って戻ってきた。代わりに研修医が行って注射し、幸い命に別状はなく、笑い話となった。

当時私はこの件を不安を招いた不適切な説明ととらえていた。しかし今振り返ってみると死ぬかもしれないことは事実であり、家族がやや過剰に反応したところはあるが、上司の説明は的確だったと思わざるを得ない。明らかに私の意識が変わったのだ。そもそも私が研修医のころは手術前後の説明はあったが、説明用紙や同意書は存在しなかった。癌の告知もされずに手術をしていた。おそらく合併症の説明は皆無だったと思われる。手術がうまくいわれた大先輩の術後の説明が「悪いとこ取ったから」という話も、人柄がうかがわれるなと感心していたものである。

インフォームドコンセントという言葉にだんだん抵抗がなくなるにつれ、いろいろな同意書や説明書が増え、合併症の説明にもだいたい時間をとるようになった。特に昨年医療事故調が始まってからは、毎回のよう死ぬかもしれないという説明をすることとなった。当科では以前は手術時の説明内容は主治医に任されていたが、昨年から岩手県立病院医師連合会で作成した各術式の説明や術後合併症をまとめた「コントラクト」を外科全員で使うこととした。合併症や死亡率が記載されており重宝している。説明の仕方によって患者さんのとらえ方がかわらないように説明の共通化は有用だ。また、説明には看護師も同席しており、説明後に質問や誤解がないか理解度を確認している。それにしても説明用紙や同意書があまりに多く、インターネットのようにボタンをクリックして同意とできないものかと思いながら署名をお願いしている。手術の際は4～5枚は署名が必要であり、患者さんもとたいへんである。

時間をとられる作業であるが、インフォームドコンセントは医療安全のうえで必要なことであり、患者・家族の理解のためだけではなく、自分たちの身を守ることにつながる行為なので労を惜しまずに続けていきたい。

各科のトピックス

介護予防のための骨粗鬆症対策について

鳥羽整形外科医院 鳥羽 有

要支援・要介護状態を引き起こす原因疾患の第1位は運動器の障害（平成25年厚生労働省国民生活基礎調査）であり、ロコモティブシンドローム（略称：ロコモ、和名：運動器症候群）を予防することが健康寿命を延ばし、要介護状態を予防することになります。ロコモの三大原因疾患は骨粗鬆症、変形性膝関節症、腰部脊柱管狭窄症ですが、高齢化が急速に進行している気仙地区において特に重要な疾患は骨粗鬆症であり、骨粗鬆症による骨折の対策が急務と考えられます。

骨粗鬆症による骨折で代表的なものは、太ももの付け根の骨折である大腿骨頸部骨折です。放置すると寝たきりになり要介護状態となってしまうため、基本的に早期の手術とリハビリテーションが必要になります。また、骨粗鬆症による骨折で最も多い骨折は脊椎圧迫骨折です。転んだり重い荷物を持ったりすればもちろんですが、自然に起こるいわゆる「いつのまにか骨折」もあり注意が必要です。腰と背中との境目の胸腰椎移行部に起こることが多いという特徴があり、腰背部痛が強い場合もあればほとんど痛みがない場合もあります。また、1つ目の骨折が起こると2つ目の骨折がさらに起こりやすくなり、1つ目の骨折の時点で適切な対策をとらないと次々と骨折連鎖が起こっていくことになります。その結果、腰から背中が曲がった円背になり、長時間の立位・歩行が困難に

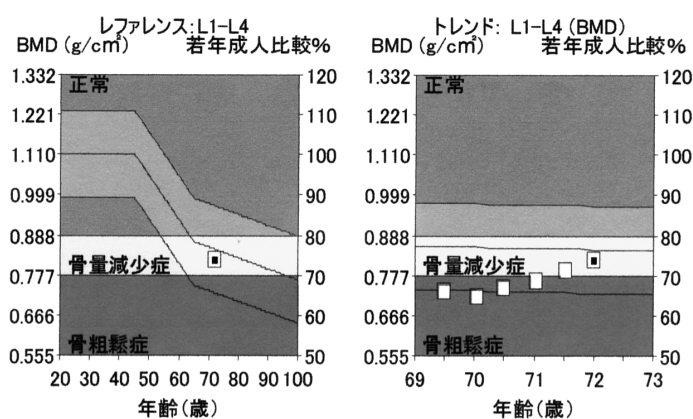
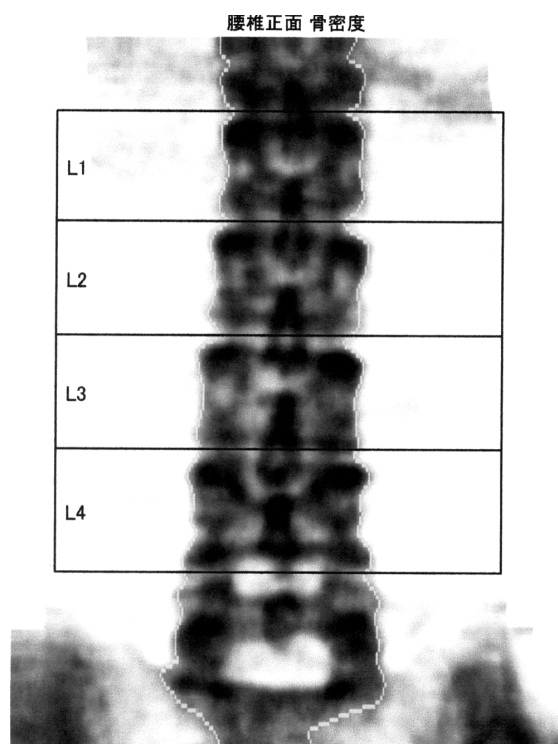
なり要介護状態となっていきます。新規骨折の初期症状は安静時の腰背部痛がほとんどなく、起き上がりや立ち上がりの動作で強い腰背部痛が起こります。新規骨折の初期はX線ではわからないことも多く、MRIが診断に有用です。新規骨折のため腰背部痛が強い方はコルセット、痛み止めの内服や坐薬、カルシウム製剤（商品名：エルシトニン）の注射などで骨折の治療行いますが、腰背部痛が落ち着いた時点から引き続き骨粗鬆症の治療を開始し、継続していくことがその後の骨折を予防していく上で非常に重要です。

骨粗鬆症の診断は2012年より①脆弱性骨折（立った姿勢からの転倒かそれ以下の外力で起こった非外傷性骨折）が脊椎か大腿骨頸部にある場合、②肋骨、骨盤（恥骨、坐骨、仙骨を含む）、上腕骨近位部、橈骨遠位端、下腿骨に脆弱性骨折があり、骨密度がYAM（young adult mean：20歳から44歳までの骨密度の平均値）の80%未満の場合、③脆弱性骨折がなく骨密度がYAMの70%未満の場合の3つのどれかに当てはまればということになっております。①の診断になる方は70歳以上の女性で腰痛のため来院される方に多く、③の診断になる方は骨粗鬆症検診で指摘され受診される方が多いです。私も含めて特に②の基準に当てはまっている方の治療がされていないことが多いので、今後力を入れていく必要があると考えております。

骨粗鬆症治療の基本は薬物療法で、ビスフォスフォネート製剤が第一選択になります。現在は毎日、週1、月1の内服製剤（一般名：アレンドロン酸Na、リセドロン酸Na、商品名：ボノテオ、リカルボン）と月1の静注製剤（商品名：ボンビバ）があり、それぞれの患者さんに合ったものを選択し継続していただくことが重要です。また、特に50歳～60歳台の骨粗鬆症検診で指摘され治療を開始する比較的若い女性の患者さんにはSERM（和名：選択的エストロゲン受容体モジュレーター、一般名：ラロキシフェン塩酸塩、商品名：ビビアント）を選択することもあります。治療効果が不十分な方は活性型ビタミンD3製剤（商品名：エディロール）を追加し、それぞれと併用したりすることもあります。すでに治療しているにも関わらず脆弱性骨折を起こした方、骨折が複数あり今後骨折の危険性が高い方には骨形成促進剤であるテリパラチド（商品名：テリボン、フォルテオ）や骨吸収抑制剤であるデノスマブ（商品名：プラリア）の注射薬を使用します。テリパラチド

は週1回の皮下注射を来院して行うもの（テリボン）と、1か月分持って行き自己注射するもの（フォルテオ）があり、前者は72回（1年半）まで、後者は24か月（2年）までの投与制限があります。デノスマブはカルシウム、ビタミンD、マグネシウムの合剤（商品名：デノタスチュアブル錠）を2錠毎日服用しながら半年に1回来院して注射を行います。いずれも従来の内服薬よりも骨折抑制効果、骨密度増加効果が強力なものとなっております。

骨粗鬆症の患者さんは認知症や難聴を併発している場合も多いため、その結果骨粗鬆症であるという自覚が乏しくなり治療を中止してしまう方も多くみられます。脊椎のX線で新規骨折がないことを確認したり、可能であれば6ヵ月～1年に1度は腰椎の骨密度を測定し、治療の効果を説明しながら治療を継続するように励ましたりすること必要だと思います。介護予防のため地域の皆様と一緒に骨粗鬆症診療に取り組んでいきたいと思っておりますので、今後ともよろしくお願い致します。



部位	¹	²		³	
	BMD (g/cm ³)	若年成人比較 (%)	Tスコア	同年齢比較 (%)	Zスコア
L1	0.810	76	-2.1	101	0.1
L2	0.806	72	-2.6	94	-0.4
L3	0.809	72	-2.6	94	-0.4
L4	0.849	76	-2.3	99	-0.1
L1-L2	0.808	74	-2.4	97	-0.2
L1-L3	0.808	73	-2.4	96	-0.3
L1-L4	0.820	74	-2.4	97	-0.2
L2-L3	0.807	72	-2.6	94	-0.4
L2-L4	0.823	74	-2.5	96	-0.3
L3-L4	0.831	74	-2.4	97	-0.2

医 院 紹 介

陸前高田市国民健康保険二又診療所

所長 石 木 幹 人

陸前高田市高田町から、廻館（まったて）橋を渡り国道343号線を一関方向に上ると約10km（車で約10分）で生出から住田に向かう国道の分岐点に至る。ここは文字どおり、高田からの道路が二又に分かれるところである。矢作小中学校に挟まれひっそりと二又診療所がある。その歴史は古く、昭和5年4月に矢作信用販売購買組合立の診療所が設立され、産婆看護婦常駐、開業医の週1回の出張診療で始まった。昭和18年に念願の常勤医を迎えることができた。その後も医師確保には難渋しながらも地域の開業医や気仙郡南病院（現岩手県立高田病院）の協力を得ながら診療機能を維持し、昭和29年4月に今の位置に診療所を建設し現在に至っている。3.11の後、被災を免れた唯一の医療機関として、矢作町はもとより、陸前高田市全市から患者が訪れ、被災後早期の高田市民に対する医療供給に大きな役割を果たした。



待合室での健康に関する紙芝居



医師住宅で開催された演奏

矢作町は人口密集地の下矢作地区、二又地区、木炭祭りで有名な生出地区、ループ橋の下に位置する小黒山地区、気仙沼に通じ旧大船渡線沿線に沿ってある飯森地区などの地域があり、それぞれ高齢化率が40%を超え、ここ数年で限界集落（高齢化率50%超え）に突入する地域もある。高齢者の一人住まいや、2人住まいが多く、ほとんどの家に65歳以上の高齢者がいる。通院のための交通手段がないため、患者送迎用のワゴン車があり、定期的に運行している。集合場所、時間は決まっているが、直接自宅の前まで迎えに行くこともある。診療が終わると、各地区の患者がすべて終わるまで待って、地区の患者が全員送迎者に乗り込み送っていく。待合室は、地区の患者さんが集まるため、まるでサロンの様相を呈し、日常の情報を出し合い、笑いが絶えない。その地区に訪問診療があるときは、スタッフが一緒に乗り込む。訪問診療の患者宅でスタッフが降り、その奥に住む患者さん達を送った後、車が戻ってきて患者宅の前で診療の終わるのを待っている。患者さんたち

は高齢にもかかわらず、いたって元気で、生活自立者が多く、認知機能もよく保たれている。「お年はいくつですか」という質問をよくするが、ほとんどの患者が正解を即答する。先日97歳の女性のこの質問をしたら、「87歳」と答え、にっこりと笑っていた。医者をからかうユーモアを持つ高齢者たちが多く、高齢ゆえに自分の健康には関心が深い。生活習慣に対するアドバイスはよく聞いてくれる。高齢者で生活自立している人たちは、ほとんどが仕事をしていて農業で毎日体を動かしている。高齢者のひとり暮らしを心配しているが、地域の近所付き合いは密で、それぞれが日常的に付き合いを持っていて、互いに支えあい、地域の小サロンが至る所にある。生活習慣病の極意、一無（タバコはダメ）二少（カロリー、塩分は低め）三多（睡眠、運動、人付き合いは十分に）の三多は、この地域では自然に行われていて、高齢になっ

ても健康に暮らしている源になっているのを感じている。小サロンをもう少し広げ、孤立している高齢者にも集まれる場所を提供できるようなサロンの展開が住民の自主的な運営でできるようにサポートしていきたいと思っている。

被災していない地域であり、被災との関連が薄いと考えていたが、家族や親類、親しい人を被災で失い、今までの生活が激変した人たちも多く認められる。しかし、被災に関する支援が十分に届いていない。被災による心の問題や、高齢に伴う不安など、それを支える機能も二又診療所の大きな役割である。歴史ある診療所に勤務して半年たったが、少しずつ問題点が見えてきている。私自身も高齢者の仲間入りをして久しく、患者さんと同じ目線に立った診療を通し、地域の活性化に貢献できるように頑張っていく決意である。



診療所職員

東日本大震災復興支援岩手県医師会野球大会

- 日 時：平成28年8月28日（日）
- 会 場：奥州市 開会式：水沢公園野球場
試合会場：根岸公園野球場
- 懇親会場：プラザイン水沢

7月から毎週水曜を練習日に予定していたが、水曜日になると何故か雨が降って練習中止となり、今年ほど練習のできない年もなかった。メンバーが全員揃うかどうか分からない状況で、まともな試合ができるのかどうか不安を抱えたままの大会参加となった。8月には大雨や台風の相次ぐ襲来で今年も試合ができなくなるのではと危惧されたが、当日は晴れて上々の天気となり無事開催の運びとなった。



開会式場の水沢公園野球場には予定メンバー全員が集合しており、まずはひと安心。当医師会は総勢12名で、うち2名の研修医が気仙初の女性メンバーに入り6年ぶりの大会参加に花を添えた。開会式後、試合会場の江刺根岸公園野球場に移動。

今大会は、トーナメント方式で決勝まで実力を争う勝負ブロックと、3チーム毎のリーグ戦を行いその結果でトーナメント表に割り振り、決勝を

ジャンケンで争う懇親ブロックの2つに分かれて試合が行われた。当医師会は後者のブロックにエントリーし、初戦は遠野ベアーズと対戦した。当チームの戦力は果たしてどうなのか全く予想がつかなかったが、蓋を開けてびっくり。初回表の攻撃では、思いのほか打線がつながり一時満塁としたが、あと1本が出ず1点止まり。守備では不安のあった外野の守りが意外に堅く、ピッチャー星田の伸びのある速球が冴えてあっさり三者凡退に抑えた。続く2回表の攻撃も打線が好調で再び満塁のチャンスを迎えたが、またまた1点止まり。裏は星田の好投が続き2-0でリードした。3回表の攻撃でさらに2点を加え4-0、これは完封なるかと思われたが、野球は最後までわからないもの。練習不足がたたったか、急に制球が定まらなくなり、あっという間に同点に追いつかれて満塁とされ、最後に痛恨の一打を浴びて4-5の逆転サヨナラ負けを喫してしまった。



気持ちを切り替え次の北上医師会Bチームとの対戦に臨んだ。初戦と同じメンバーで再び星田先生にピッチャーをお願いしたが、こちらの試合はストレスなく和気あいあい、見ていて安心のできる試合運びとなり4－1で勝利した。対戦成績1勝1敗リーグ2位通過ではあったが、怪我もなく念願の1勝をあげることができ、6年ぶりの試合としては満足のいく結果となった。

試合終了後、薬師堂温泉で汗を流したあと懇親会場のプラザイン水沢へと移動。恒例のジャンケン大会は各チーム5人で行い、先に3勝した方が勝ちとなる。初戦の相手は花巻市医師会Bチーム。結団式でジャンケン練習を行い予め順番を決めておいたのでその順番通りに対戦。まずは勝利の女神森岡を一番手に送り幸先よく一勝、さらに勢いに乗って2勝をあげ3－1で勝利した。続く2回戦では岩手医大AnesTチームと対戦。こちらも森岡が1勝をあげたが、あとが続かず残念ながら3－1で敗れた。1勝だけではあったが、運良く3位入賞となり久方ぶりに表彰状をいただくことができた。

決勝は北上医師会Bと岩手医大AnesTの対戦となり、北上医師会Bが3－0で優勝した。

勝負ブロックでも北上医師会Aが優勝しており、北上医師会は見事ダブル優勝を果たした。

来年は一関医師会担当で開催される予定である。当医師会チームは練習を積み勝敗ブロックでの参戦も夢ではないと確信したので、野球に少しでも覚えのある先生方には是非とも来年の参加をお願いしたい。

最後に、練習に参加し当日応援にも駆けつけてくれたMR、バイタルネットの諸兄に心から感謝申し上げる。

(報告：伊藤俊也)

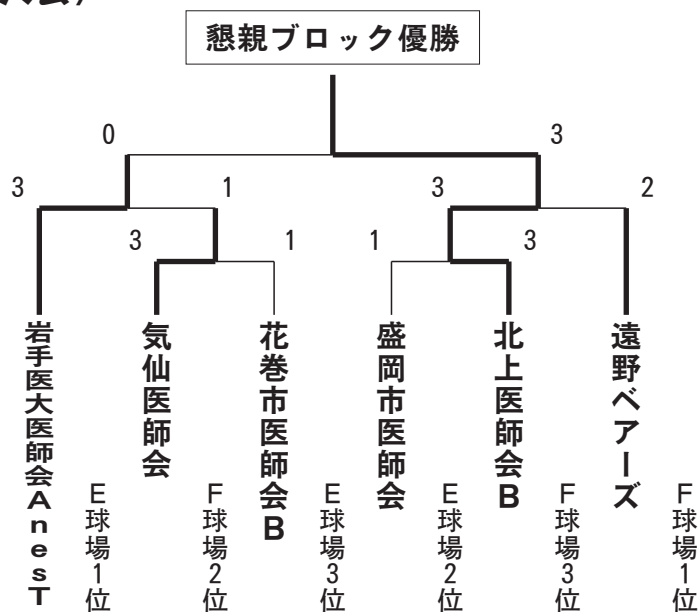
参加メンバー以下の通り

(総監督) 洵向 透、(監督) 伊藤俊也、(投) 星田 徹、(捕) 石岡秀基、(一) 森岡英美、(二) 天野朋彦、(三) 草野修司、(遊) 村上寿幸、(左) 山浦玄悟、(中) 岩洵正之、(右) 鳥羽 有、(補) 富澤洋子



■決勝（懇親ブロック・ジャンケン大会）

優 勝 北上医師会 B
準優勝 岩手大医師会AnesT
第3位 気仙医師会
第3位 遠野ベアーズ



平成28年度

「救急医療週間」 及び 「救急の日」 のイベント開催される

9月10日(土)に大船渡病院を会場に大船渡消防署、大船渡市役所、大船渡保健所、県立大船渡病院、気仙医師会など関係団体が共催する「救急の日」イベントが開催された。

このイベントは、厚生労働省と消防庁が制定した「救急の日」9月9日の活動の一環として救急医療および救急業務について、国民の正しい理解と認識を深めると同時に、救急医療関係者の意識高揚を図ろうと例年開催している。

イベントでは、主催者を代表して気仙医師会滝田会長が挨拶、引続き、大船渡病院整形外科長の田島医師の医療講演や大船渡消防署の救急救命士等による心肺蘇生法などAEDの使用講習会、親子等による緊急車両とヘリポートの見学を実施。

総勢60人程の参加者は緊急時の対応等についてしっかりと学び、万が一の事態に備えた学習をした。



みんなの いわて を
医 協
ご利用ねがいます

医療用品カタログ通販 5,000品目満載 最大89%引き

医用印刷物・医療機器・医療事務機器・衛生材料
等々・保険事業・医療廃棄物処理事業(収集から
各種報告書作成まで)・福利厚生事業・労働保険
事務代行業業

TEL.019-626-3880

購買専用
フリーダイヤル 0120-054-222

FAX.019-626-3883

URL <http://www.ginga.or.jp/isikyo>

E-mail isikyo@rose.ocn.ne.jp

 いわて医師協同組合
IWATE MEDICAL COOPERATIVE ASSOCIATION
〒020-0024 盛岡市栗園二丁目8番20号 岩手県医師会館内

新 入 会 員 の 紹 介

石 塚 明 温 先生

入 会 日 平成28年 5 月 1 日
生年月日 昭和22年 3 月 6 日
出 身 校 札幌医科大学医学部
勤 務 先 医療法人勝久会 松原苑

久 邇 良 徳 彦 先生

入 会 日 平成28年10月 1 日
生年月日 昭和46年 2 月16日
出 身 校 弘前大学医学部
勤 務 先 岩手県立大船渡病院

会 員 の 退 会

中 館 敏 博 先生

退会年月日 平成28年 9 月30日（退職のため）

事 務 局 日 記

（7月～9月）

- 7月3日 岩手県医師会総会及び岩手医学会（伊藤副会長、岩渕理事、鳥羽理事）
- 7月13日 野球練習日
- 7月14日～15日 医師会関係者の職場健康診査（シーパル大船渡）
- 7月19日 第1回「救急の日」イベント準備会議（於：大船渡病院講義室、伊藤事務長）
- 7月20日 長時間労働面接指導（山崎内科医院）、野球練習日
- 7月22日 健康相談面接相談（山崎内科医院）
- 7月25日 「けせん医報」第138号発刊
- 7月27日 第138号「けせん医報」発送
- 7月28日 気仙医師会学術講演会の日程調整について（山浦学術部長来館）
- 8月6日 県医師会第1回理事会並びに郡市医師会長協議会（滝田会長）
- 8月7日 いわて国体デモマラソン大会（大船渡市）医務係・田畑高田病院院長
- 8月8日 県医師会千葉事務局長来館、医師会診療所完全閉鎖のため挨拶
大船渡市国保年金課長来館、吉浜診療所医師の件について
- 8月10日 気仙医師会第3回理事会（気仙医師会館）
野球練習日
- 8月17日 吉浜荘嘱託医について来館（吉浜荘 佐々木理事、大船渡市大浦国保年金課長）
- 8月23日 野球練習日、及び結団式（泰州にて）
- 8月25日 第2回「救急の日」イベント準備会議（於：大船渡病院講義室、伊藤事務長）
- 8月28日 岩手県医師会東日本大震災復興支援親睦野球大会参加(奥州市)
- 9月2日 長時間労働面接指導（山崎内科医院）
- 9月8日 全国労働衛生週間研修会（於：シーパル大船渡、佐藤事務員）
- 9月10日 「救急の日」イベント開催（於：県立大船渡病院・滝田会長、伊藤事務長）
- 9月26日 FAX契約更新（日本メディアシステム）
- 9月27日 野球大会等慰労・懇親会（栄寿司）